

今週（12月23日から12月27日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、日銀当座預金残高は402兆円程度で横ばい圏での推移となった。無担保コールO/N物は、今週に入り地銀業態を中心に調達ニーズが徐々に強まったことから、レートは日を追うごとに上昇する展開となった。一方で、都銀・信託・証券業態は▲0.08%前後と低めの出会いとなったことで、レートは二極化した。加重平均レートは、週初▲0.05%後半から始まり徐々に上昇し、週末は▲0.05%程度まで上昇した。ターム物は年内エンドの期日物で引き合いが散見された。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは26日に2W・15,000億円がオファーされ、結果は5,997億円（期落ち額5,757億円）と札割れとなった。

●レポ市場

今週のGC T/Nは、▲0.07～▲0.05%程度のレンジで推移した。年末越えは週初からターム物で出会いが散見されていたためか、年末初にあたる27日のT/N（12/30～1/6）では落ち着いた水準で取引された。

SC個別銘柄では、5年133～141、10年336～356、20年162～170、30年59～64、40年9～12などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、年末を控えて参加者が減少している中、閑散なマーケットとなった。週後半には、年末のポジション調整からかカレント物で売り物が散見され、3M物で▲0.110%、6M物は▲0.140%、1Y物では▲0.120%程度の出合いが見られた。

24日に実施された短国買入オペは、市場予想を上回る5,000億円でのオファーとなった。応札額も15,958億円と多く、平均落札利回較差+0.038%、按分落札利回較差+0.022%と、在庫調整の売りからか、非常に弱い結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、年末・年始を跨ぐ週にあたり、鉄鋼・商社・食品等幅広い業態から大型発行が実施された。例年通り、3兆5,000億円程度の償還に対して、2兆7,000億円程度の発行にとどまる大幅な償還超のマーケットとなった。ただ、年末近辺の償還規模が大きく、週間合計としては償還超となっているものの、年初のスタートで商社・鉄鋼業態などが大口での発行を既に実施するなど、来年も多くの事業法人がCPを積極的に活用していくものと見られる。一方、発行レートに関しては、償還超の状態ではあるものの、高水準の市場残高を背景に荷もたれ感も強いことに加え、投資家・ディーラーのキャッシュ潰しニーズが全体的に減退しており、総じて若干の上昇傾向が見られた。積極的なマイナス水準での買い姿勢は希少銘柄であっても影を潜め、殆どの銘柄が0%付近の狭いレンジに集中する展開となった。

25日に本年最後となるCP等買入オペが事前予定額から500億円減額の2,500億円がオファーされた。30日スタートの買入ではあったものの、高水準の市場残高やキャッシュ潰しニーズの減退を受け、ディーラーの売却ニーズは強く、按分落札レート▲0.001%、平均落札レート0.001%と、按分落札レートは前回比横ばい、平均落札レートでは前回比で上昇する結果であった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
12/23 (月)	23,821.11	0.000	109.42	△ 0.059	△ 0.060	4,025,200
12/24 (火)	23,830.58	0.000	109.40	△ 0.058	△ 0.072	4,023,500
12/25 (水)	23,782.87	△ 0.020	109.38	△ 0.056	△ 0.057	4,021,800
12/26 (木)	23,924.92	△ 0.020	109.55	△ 0.055	△ 0.058	4,022,200
12/27 (金)	23,837.72	△ 0.015	109.49	△ 0.051	△ 0.060	4,014,400

来週・再来週（12月30日から1月10日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
12/30 (月)	証券取引所大納会				12月のシカゴPM景況感指数
12/31 (火)	大晦日				10月のS&P/ケース・シラー住宅価格指数 12月の米CB消費者信頼感指数
1/1 (水)	元日				New York, EURO, London祝日(New Year's Day)
1/2 (木)					
1/3 (金)					12月のISM 製造業景況指数 11月の米建設支出
1/6 (月)					
1/7 (火)	財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00) 12月のマネタリーベース(日銀 8:50)	TB3M 43,400億円 1/8発行	10Y 21,000億円 1/8発行	交付税借入 10,500億円 1/17借入	11月の米貿易収支 11月の米製造業新規受注・出荷・在庫 12月のISM 非製造業景況指数 12月のユーロ圏消費者物価指数速報値
1/8 (水)	11月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30) 1月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50) 12月の消費動向調査(内閣府 14:00)				11月の米消費者信用残高
1/9 (木)		TB6M 23,000億円 1/10発行	30Y 7,000億円 1/10発行	エネルギー 対策借入 5,000億円 1/20借入	
1/10 (金)	11月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 12月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 11月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)	TB3M 43,400億円 1/14発行			11月の米卸売売上高 12月の米雇用統計

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
12/30 (月)	▲ 1,400	▲ 5,900	▲ 7,300	CP買入	▲ 800	2,500	1,700	▲ 5,600	
12/31 (火)									
1/1 (水)					元日				
1/2 (木)									
1/3 (金)									
週間合計	▲ 1,400	▲ 5,900	▲ 7,300	—	▲ 800	2,500	1,700	▲ 5,600	
1/6 (月)	6,000	▲ 20,000	▲ 14,000				0	▲ 14,000	2Y発行▲20000
1/7 (火)	5,000	▲ 1,000	4,000				0	4,000	
1/8 (水)	5,000	▲ 48,000	▲ 43,000				0	▲ 43,000	税・保険料揚げ 国立大学法人運営費交付 TB3M発行▲43400償還41800 10Y発行▲21000
1/9 (木)	4,000	3,000	7,000				0	7,000	
1/10 (金)	3,000	▲ 13,000	▲ 10,000				0	▲ 10,000	TB6M発行▲23000償還16900 30Y発行▲7000
週間合計	23,000	▲ 79,000	▲ 56,000	—	0	0	0	▲ 56,000	

12/30は日銀予想、1/6以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、30日は年末越えの取引となり、調達を控える先が複数あると見られることから、レートは低下が見込まれる。年明けは積み期の後半に入る。営業日日数が少ない中での調整となることから、レートは上昇しやすいと考えられる。資金需給は年明けに銀行券の大幅な還流がある一方で、6日に2Y発行による不足日、8日に法人税・年金保険料揚げ及び10Y発行による大幅な不足日、10日にTB6M発行超過、30Y発行による不足日が見込まれる。レボ市場は、GC T/Nは▲0.08～▲0.04%程度の水準が予想される。短期市場は、30日は、年内最終日ということもあり、閑散なマーケットとなることが予想される。年明けは、7日に3M物、9日に6M物、10日に3M物の入札が実施予定となっており、海外勢の動向や、連日の入札によるレートへの影響が注目される。CP市場は、30日は事業法人の多くが休暇に入ると見られ、閑散が予想される。再来週の新年第一週は、年末に残高を落とした事業法人が本格的に調達を再開すると見られ、動向が注目される。

主要なイベントとしては7日の12月のユーロ圏CPI速報値、10日の12月の米国雇用統計などが挙げられる。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされようようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くことがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入